

町長 木村 庄



昭和五十九年のすがすがしい新春を迎え、心あらためて年頭のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと昭和五十八年は不況から立ち直りの兆しが見えたとはいえず、経済全般は「おしん」の一年でした。国、県の財政も厳しく各施策の見直しが行われ、事業の導入、実施も大変難しい年でございました。しかし、郷土の諸先輩のお力添え、そして町民の皆様の絶大なる

ご支援をいただき当初計画に近い施策をすすめることができました。ここにあらためて皆様方に厚くお礼申しあげ次第でございます。

とくに国道バイパス、その関連道の用地の買収も関係者みなさま方の絶大なるご協力により、五十六、五十七、五十八年の三年間で約八〇%が完了いたしました引き続き五十九年には残り二〇%も買収される計画ですが重ねて皆様方のご協力をたまわりますようお願い申し上げます。三隅中学校の改築につきましては財政のきびしいおり、町の伝統であります青少年の健全育成を目ざし改築にふみきり、この二月には新校舎で授業が始められる予定でございます。

また野波瀬保育所の改築につきましても、幼児教育の重要性をふまえて実施したものであります。

念願ございました県営は場整備も昨年で面工事が完了いたしました新年度から排水事業など補完工事を実施いたすこととしてまいります。これも農家のみなさん、そして関係者各位のご努力ご支援のたまものと存じております。しかし農業情勢は農産物の輸入、価格の低迷など楽観を許さないものがあります。農業は本町産業の基盤をなすものであり、その再編成は急務であり新しい整備田の上に立つ営農組織の編成を行い、作物別、品種別の集団化等、土地利用の効率化を図り生産性の向上を図るため、農協が軸となり町内を七つの営農区分け営農区毎に営農組織の編成を実施いたしました。この組織が機能し

施設型農業と土地利用型農業とが有機的につながり生産性の高い三隅農業の再編が生れるものと確信するところであります。

ります。これも土地利用を基本とした地域毎の住民皆様方の話合いによる相互理解が前提となることと思えます。

県では「ふるさとづくり」の運動を推進し、本町では昭和五十四年から自治会を軸に「新しいむらづくり」運動をおこしております。そして年を重ね定着化しつつあります。この動きをより強力にするため昨年「三隅町むらづくり推進協議会」を設立し、町内の婦人会、商工会、農協等十九の機関、団体が参画し、各機関の連絡調整、方向づけ、推進方などを協議するように致しました。いづれにしましても農業問題を始め各般に亘り、それを推進する根底をなすものは皆様ともども話合い

による相互理解にあると思えます。また商工、林業、漁業、教育など山積された問題もありますが、次の機会にと取り

急ぎ課題を絞らせていただきました悪しからずお許し下さい。

なお各面に亘ってのご協力、ご尽力をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

なお国の見通しを見ても本年も経済の好転は考えられない状況です。引き続き「おしん」の年になるかも知れません。恐らく国、県の財政もよりきびしいものになることも予測できそうです。「耐乏の中に光を見出す」このことを願いつつあしたの町行政に向けて職員ともども努力する所存であります。皆さまもこの事情をおくみ取りご理解いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

最後にこの一年皆様様が健康でお過ごしになられるよう祈念しまして年頭の辞といたします。

新年あけまして

